

令和元年度博物館施設評価集計シート（3月末）

施設名 嵐山史跡の博物館

1. 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

							評価基準	
							目標値の達成度(100%以上)	達成
							目標値の達成度(100%未満)	未達
No.	視点	項目	指標	目標値	評価	目標値の設定根拠		
				達成値		特記事項		
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	66,800	人	未達	第3期教育振興基本計画を踏まえた目標値 新型コロナウイルス感染症対策のため3月休館	
				64,544	人			
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	16,090	人	達成	基準値:12,329 目標参考値:16,086	
				27,070	人			
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	120	件	未達	基準値:92 目標参考値:117	
				104	件			
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	1,900,000	円	達成	当該年度予算計上額	
				1,972,040	円			

(2) 館別独自項目

		評価基準	
		目標値の達成度(100%以上)	達成
		目標値の達成度(100%未満)	未達

No.	視点	項目	指標	目標値	評価	目標値の設定根拠		
				達成値		特記事項		
1	企画展	入館者	企画展の入場者数	16,090	人	未達	昨年度実績による	
				9,614	人			
2	学校利用	団体利用	学校団体の博物館利用件数	47	件	未達	昨年度実績による	
				44	件			
3	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	1,253	点	達成	点検対象点数(歴史資料528、考古資料725)	
				1,253	点			
4	利用状況	情報提供サービス	年間HPアクセス件数	103,213	件	達成	昨年度実績による	
				156,343	件			
5	満足度	常設展アンケート	アンケートでの常設展満足度	80	%	達成	昨年度実績87%	
				84	%			
6	満足度	企画展アンケート	アンケートでの企画展満足度	80	%	達成	昨年度実績89%	
				89	%			
7	満足度	講座等アンケート	アンケートでの講座等受講生の満足度	80	%	達成	昨年度実績94%	
				89	%			

年度内に取り組む重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>○重点事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画展「戦国大名は如何にして軍需を調達したか」(会期:11/30～2/16) 歴史講座「戦国時代の城づくり」(実施日:5/17・5/31・6/14)、「うつわから見た中世の暮らし大転換」(実施予定日:2/14・3/6・3/19) 嵐山史跡の博物館セミナー「戦国大名は如何にして軍需を調達したか(仮称)」(実施日:1/26) 比企地区市町村との連携事業:「巡回文化財展 比企の天然記念物」(当館会期:10/22～11/24) <p>○新たな取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 大人も参加できる「鎧・小袷着体験」(実施日:9/23・9/28・10/6) 多言語の紹介ビデオの作成
事業の実施状況と過程	<p>○重点事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画展「戦国大名は如何にして軍需を調達したか」 会期:11/30～2/16、入館者数9,614人 歴史講座1「戦国時代の城づくり」 実施日:5/17・5/31・6/14の3日間、のべ708人参加 歴史講座2「うつわから見た中世の暮らし大転換」 (実施日:2/14・3/6・3/19)の実施準備 実施日:2/14のみ実施。3/6及び3/19は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止。82人参加。 嵐山史跡の博物館セミナー「戦国大名は如何にして軍需を調達したか」 実施日:1/26 基調講演:伊藤正義氏(元鶴見大学教授)、事例報告:盛本昌広氏(中世史研究家)、佐々木満氏(武田氏館跡歴史館館長) 受講者299人 比企地区市町村との連携事業:「巡回文化財展 比企の天然記念物」 4月～7月末 開催準備、8月20日から巡回展実施(当館会期:10/22～11/24、当館入館者7,850人)、全体9,430人 <p>○新たな取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 大人も参加できる「鎧・小袷着体験」(9/23・9/28・10/6) 8月広報、計35人参加。 多言語の紹介ビデオの作成 日本語ナレーション原稿の作成、英語・韓国語・中国語への翻訳、絵コンテ原案の作成
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> 次年度のオリパラ開催時期に実施予定の大人も参加できる「鎧・小袷着体験」を試行し、実施するうえでの問題の洗い出しを行った。 企画展の理解を深めるため、担当学芸員による展示解説、専門家を招聘しての博物館セミナーを開催した。 歴史講座などを通して、当館が担う埼玉県の中世に関する情報を発信した。 地域市町村と連携して巡回文化財展を開催した。

基礎データ

職員数 (学芸員数)	6人 (4人)	総予算額 (人件費を除く)	24,532,000円	職員一人あたりの県民人口	122.1万人
収蔵資料総点数 (H30.3末現在)	1,253点	事業経費 (上記の内数)	17,330,000円	利用者一人あたりのコスト (平成30年度)	326円
平成30年度 収集資料点数	0点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	5,860,000円 (593,000円)	県民人口に対する利用者割合 (平成30年度)	1.05%

(注)平成31年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,323,982人である

2. 全館共通項目チェックリスト

		評価基準	
		完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
		着手状態乃至課題が残されている状態	B
		未着手状態	C
項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか		
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか		
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか		
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか		
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか		
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか		
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか		
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか		
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し管理しているか		
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか		
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収蔵資料管理要項
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	要項副本を職員へ配布
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	専門職員等から最新情報
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	収蔵庫設置
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	A	IPM実施(1回/2ヵ月)
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	月1回実施
	⑦ 資料の殺虫殺菌処理を適切に行っているか	A	忌避剤散布(10月)
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	通年測定、記録
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	適正照明具の使用
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	年1回確認
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	IPM実施時に確認
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	A	資料修復計画の策定
	⑬ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	承諾書等の定期的更新

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の保存管理	⑭ 資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	資料目録(エクセルフォーマット)
	⑮ 収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	収蔵資料管理要項による
	⑯ 収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰ 収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	① 収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	資料特別利用、資料館外貸出規定
	② 収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	A	WEB公開
	③ 収蔵資料を展示に活用しているか	A	活用点数 36点
	④ 収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	貸出点数 1点
	⑤ 収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	利用点数 3点
	⑥ 資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	WEB公開中
	⑦ 収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	収蔵資料公開ページ
常設展示	① 資料の展示環境を適切に管理しているか	A	空調・露光・設置・観覧者との接触等に配慮
	② 展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	情報量、文字サイズの適正化、アイコンの活用
	③ 展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	受付1名、土日・祝日の警備員配置
	④ 展示情報を適宜修正・更新しているか	A	適宜実施
	⑤ 展示設備等を適宜点検しているか	A	開館・閉館時の巡回点検
	⑥ 展示ガイド等を作成しているか	A	見学のしおりを更新・常備
	⑦ 解説リーフレット等を作成しているか	A	館跡解説資料
	⑧ 展示解説等を適宜実施しているか	A	来館者の要望により実施
	⑨ 観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	アンケート実施
	⑩ アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	アンケートの集計・分析
	⑪ 県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	館HP、イベントチラシ作成
学習支援事業	① 事業情報を利用者に広く発信しているか	A	館HP、イベントチラシ作成
	② 多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	電話、往復ハガキ
	③ 多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	歴史講座、体験教室、文化財めぐり等
	④ 参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	体験ボランティアの養成・配置

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	サポーターの配置
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	参加者アンケートの実施
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	A	アンケートの集計・分析
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	展示室内に図書閲覧コーナー
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	希望に応じてインターンシップ受入れ
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	体験学習・館跡ガイド等
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要項
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要項
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	ボランティア定例会、研修会
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	A	HP等で活動紹介
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	講座等に参加NPOときがわ等
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	A	スリーデーマーチ、嵐山時代まつり
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	館報等で明示
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	A	既定予算で対応
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	学芸員研修体系による
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	中世城郭や石造物等の調査研究
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	研修への参加
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	中世城郭や石造物等の調査研究
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	適宜実施
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	セミナーの開催
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	講座等の開催
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	市町村講座等に講師派遣
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	予算要求資料の作成
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	テグス留め等
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	危機管理マニュアル作成
	④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	防災点検、防災訓練実施
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	A	休憩コーナー
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車椅子

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
施設・アメニティー	⑦ バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設整備点検実施
	⑧ 一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用2台
	⑨ 手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	A	手すり、スロープ、点字ブロック等の設置
	⑩ 利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	配色や文字サイズに配慮
	⑪ 館内サインの英文表記など国際化への対応はとられているか	A	トイレ等誘導サインの英文化
	⑫ 利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	夏季開館時間の延長
	⑬ 便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	外トイレ、大型バス駐車場の整備
施設の利活	① 施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	利用案内、危機管理マニュアル
	② 施設利用のための情報を公開しているか	A	HP等で情報公開
	③ 施設を一般の利用に提供しているか	A	講座室 ロビー展で使用
	④ 施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	体験ホール、芝生広場等
	⑤ 施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	A	ロビー展の開催
	⑥ 地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	年間共通観覧券、JAF優待サービスの導入

3. 館別独自項目チェックリスト

嵐山史跡の博物館

評価基準	
完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
企画展事業の実施	① 調査研究の成果を反映した展示となっているか	A	戦国大名の軍番を紹介する内容
	② メディアへの情報提供など広報活動は十分行っているか	A	県・市町村広報誌、新聞、雑誌、HPでの広報
	③ 展示図録を作成し、一般に頒布しているか	A	企画展図録を頒布
	④ 展示に関連した講演会等が実施されているか	A	企画展講演会等の実施
	⑤ 展示観覧者アンケートを実施し、満足度を測定しているか	A	アンケート実施
	⑥ 外部団体の協力を得た展示となっているか	A	関連寺社や機関の協力
市町村等との連携事業の実施	① 市町村等に対して連携事業の実施を働きかけているか	A	比企地区市町村文化財担当への働きかけ
	② 市町村との連携事業を実施しているか	A	比企地区市町村文化財担当と連携して巡回展を実施
	③ 市町村以外の団体との連携事業を実施しているか	A	彩の国・文化の森連絡協議会との連携
	④ 地域の博物館等と連携して利用促進を図っているか	A	埼玉博連西部地域館との連携
	⑤ 地域の文化財活用事業に協力しているか	A	嵐山時代まつりへの協力
史跡の保存・活用	① 菅谷館跡の保存に努力しているか	A	館跡の定期的巡回、日常管理の実施
	② 菅谷館跡のガイダンスに努めているか	A	館跡ガイドツアーの実施
	③ 菅谷館跡が地域に有効利用されているか	A	嵐山時代まつり
	④ 菅谷館跡の史跡としての価値を県民にPRしているか	A	立体模型や比企城館跡群の紹介展示、ガイドツアーの実施
各種事業の実施	① 歴史講座等の事業の企画について工夫しているか	A	話題になっている内容での講座の開催
	② シンポジウムなど話題性のある講座・講演会の開催に努めているか	A	歴史講座、特別講演会等の開催
	③ 菅谷館跡の活用を促進する事業を実施しているか	A	館跡ガイドツアーの実施
	④ 県内各地の史跡を探訪する事業を実施しているか	A	文化財めぐりの実施
	⑤ 事業の更新について県民ニーズを把握しているか	A	事業参加者アンケートの実施

令和元年度 博物館施設 総合評価

施設名 嵐山史跡の博物館

		達成	未達	達成見込
全館共通	数値目標による評価	2	2	0
各館独自	数値目標による評価	5	2	0

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	80	0	0
各館独自	チェックリストによる評価	20	0	0

自己評価総括

評価	<p>1 数値目標による評価</p> <p>(1)全館共通項目 「1利用者数」については2月まで順調に推移してきたものの、新型コロナウイルス感染防止対策のため、2月29日から3月31日まで休館とした影響により、目標値に対して-2,256人、割合では-6.75%で未達となった(ちなみに、前年の平成30年度3月の実績は4,873人)。引き続き達成に向けた努力を要する。「3事業情報の発信」についても-16件で未達となり、達成に向けた努力を要する。「2常設観覧者」は、常設展における資料の展示替えをこれまでよりも多く実施したことから目標を達成した。また「4経営努力」については、利用者数が減少する中で、御城印やガイドブック販売などで収入の増加を図ったことで目標を達成することができた。</p> <p>(2)館別独自項目 「1企画展入館者」は目標値を下回った。なお、今年度より、入館者のカウント方法を変え、企画展講座参加者等を除いた展示室への入館者のみの人数をした。「2学校団体利用」は目標値に対して-3件、割合では-6.4%で、未達となった。引き続き達成に向けて努力を要する。「3資料点検件数」・「4年間HPアクセス件数」は目標値を達成しており、「5」~「7」の各「アンケート満足度」は、いずれも達成しており、常設展、企画展、講座等の催し物について参加者から評価を得られた。</p> <p>2 チェックリストによる評価 (1)全館共通項目及び(2)各館独自項目については、すべてA(完了または順調に進捗していて問題のない状態)。</p>
課題	<p>○博物館入館者増加に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある展示(常設展示・企画展示・ロビー展示など)、事業、広報等の検討、実施。 ・少ない職員による合理的な事業分担と協力体制の構築及び、ボランティアの協力による事業実施。
対応の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者を呼び込むための魅力ある展示・事業の検討を行うとともに、ホームページの更新・情報誌や情報電子版の管理団体などへ情報発信に努める。 ・嵐山町など近隣市町村や文化の森参加団体など市町村以外の団体と連携し、博物館事業の充実を図る。 ・職員による合理的な事業分担及び協力体制をとるとともに、新たなボランティアの発掘・活用による事業運営体制の整備を図る。

評価結果に対するコメント

各館協議会・委員会の意見

- 企画展「戦国大名は如何にして軍需を調達したか」の入館者に関してですが、とても良い企画でしたので未達なのは残念でした。展示スペースあるいは予算などで問題があったのかと思いますが、内容が不十分でテーマ名に期待して見学に行った人たちにとっては期待外れであったのではないかと思います。特に展示スペースについては限界がありますので、歴史講座「戦国大名の城づくり」などに関連して開催できればもう少し興味を引いたのではないかと思います。
- 「学習支援事業」の項目⑥および⑦の備考欄の文言ですが、チェック内容の設問を正しく反映していないと思います。文言を検討されたらどうでしょうか。
- チェックリストによる評価が全てAとなっていることだが、素晴らしい。少ない職員で施設の管理等しっかりとされていることが分かる。
- 御城印やガイドブック販売など収入増加への取り組みが図られ、工夫が感じられる。
- 新型コロナウイルス対策のため3月は休館したにもかかわらず、年間常設展示観覧者数が目標値を大きく上回っている。しかし、企画展の入場者数が驚くほど低いのはなぜか。今年度から入館者数のカウント方法を変えたのなら、目標値の設定も考える必要があるのではないか。引き続き、入館者を呼び込むために魅力ある展示・事業の検討を行うとともに、事業情報の発信にも努めてほしい。
- 令和元年度については、秋の大型台風や春のコロナウイルスの影響が大きく、通常の年度とは数値上の目標を比較してもあまり意味はないと思われる。むしろ、このような危機的な時期を経験したことで、日常の訓練や体制整備といったリスクマネジメント、そして遭遇したときの対処方法(危機管理)を再検討するなど、今後の博物館運営に生かしてほしい。
- 臨時休館中の博物館活動では、全国60以上の博物館では「おうちミュージアム」を立ち上げ、ホームページ上で博物館について学べる工夫をしており、リンクをとおして連携していた。嵐山史跡の博物館では休館中にどのような活動をしていたか検証して、今後の館の運営に生かしてほしい。
- 職員数が少ないと課題で述べているが、同規模の市町村立館と比べれば決して少ない数ではない。職員数・学芸員数に合わせた、県立館としての事業を展開できるよう検討してほしい。周辺自治体との連携は県立館では最も進んでいるので、そういった利点を生かした計画を策定してほしい。また、課題や対応でも書かれているように、ボランティアの養成と活用が今後の課題であろう。